



クニマッスン  
出生地 忍野村  
山梨県水産技術センター  
□癖 でまっすん..



『今年は、酉年じゃ。  
酉年は、変革の年と  
聞くからのう。講左衛  
門通信もパワーアップ

していきたいと思っておるぞ。今年は、富士講と大我講について丁寧に話をしたいと思

っているんじゃよ。富士山が世界文化遺産になって、富士吉田の御師や、富士講については、メディアなどで取り上げられ、少しずつ認知度が高まっているように感じるんじゃ。しかし、大我講は、富士講には違いないんじゃが、長谷川角行や食行身禄(じきぎょうみろく)の系譜とは全く違うんじゃ。独自性のある富士講なんじゃ。』

『そうでまっすん。大我講が全盛時代、関東一円に講中がいたのだから、角行から始まる系譜に記載があってもおかしくないでまっすん。けれども、角行の系譜に、大我講の講中名はなかったでまっすん。おいらは、系譜を何度も何度も皿をなめるように、確認したでまっすん。やっぱり大我講はなかったでまっすん。あの時の、衝撃は忘れられないでまっすん。』

『そうじゃった。そうじゃった。わしらは、富士講について知識を高めるために、多くの資料を集めたんじゃ。大我講が角行と同じ、富士講だと疑わなかったからじゃ。しかし、どの文献を探しても、富士吉田市歴史民俗博物館(現・富士山ミュージアム)へ行って、学芸員と富士講の話をしたんじゃが、大我講の資料が少ないことを聞かされて、それは、ガッカリしたぞ。しかし、民族博物館に入ってすぐに様々な講中の「布マネキ」が展示してあって、その中に三ツ星マークの「西島村大我講」のマネキを見たときには、本当に嬉しかったぞ。』

『インターネットでも資料検索をしたでまっすん。検索して一番衝撃だったことは、大我講で検索すると、富士宮市教育委員会にヒットして、富士宮市にある人穴に、大我講の石碑があることを知った時でまっすん。あれは、小雨が降る、少し肌寒い日だったでまっすん。』

『懐かしいのう...しかし、あの時は、大我講の石碑を見つけることはできなかったんじゃ。天候も悪く、行った時間も良くなかったな。夕方だったような気がするぞ。後日、富士宮市教育委員会に問い合わせると、大我講の石碑は、角行や身禄が修行した人穴から、1Kほど離れたところに修行できる穴があって、その穴の脇に2基石碑が並んで建っておった。角行や身禄が修行した人穴の石碑の数に比べると、おかしな光景じゃったぞ。その光景を目にしたとき、角行の富士講と、大我講の富士講の違いが少し分かってきたんじゃ。』

『百聞は一見に如かずでまっすん。富士山世界文化遺産に登録されて以降、人穴には、観光案内所があるでまっすん。少し寂しいところなので、時々、案内所が閉まっているときもあるから、問い合わせるといいでまっすん。大我講の石碑の場所を、教えてくれるでまっすん。次回も、富士講についての話でまっすん?』 『そうじゃよ。今年も宜しく頼むぞ。』